

■永平寺式

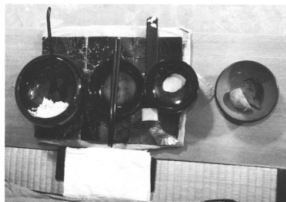
図説 曹洞宗の法式 第三卷

第三卷 僧堂法式篇

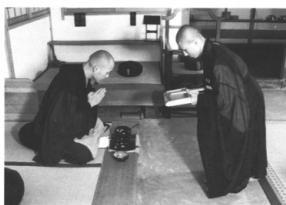
日分行持 行鉢作法 / 浄人作法 / 洗面・洗浄 / 開浴・浄髪 / 室内看經法 / 法益道場法

月分行持 小参法

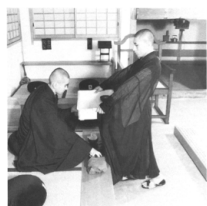
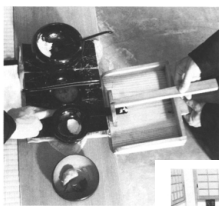
年分行事・その他 行乞法 / 掛搭・送行法



【前生】
1. 再進の浄人を入れかえに
入室 受戒の人はいらぬがしき
すくにしておく



2. 浄人未だ金草頭



② 器をうつす



③ 別室の器をさげにきたら 中食と同じ要
領で器を返す



④ 金草頭



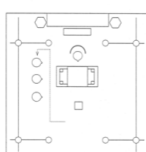
⑤ はい室の中に返し



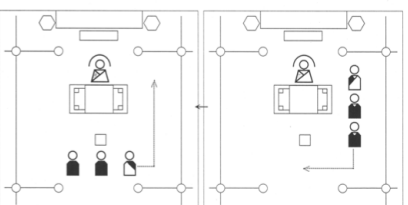
5. 両の腕指で持ち、収める



4. 四指もよから軽く拭き



7. 頭は未だよら法をいへるまで



【知事問訊】
28. 頭置問と問訊 進退して小参師に問訊する
未位先行で問訊し、終わって上位先行
で問訊する

【普請殿】



① 合衆座頭

② 器をうつす

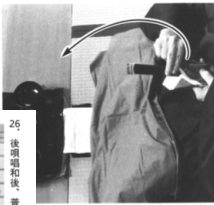
③ 別室の器をさげにきたら 中食と同じ要
領で器を返す

7. 頭は未だよら法をいへるまで

【知事問訊】
28. 頭置問と問訊 進退して小参師に問訊する
未位先行で問訊し、終わって上位先行
で問訊する



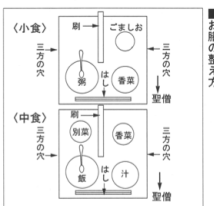
29. 胸を袖を外に出して逆手に持ち、布を当てた部分が手前にくるようにならざる。這儀と重く切の間に置く



26. 後頭髪和後 普請殿を打つ



28. 問ひよにもさきより出し、口に入れる方を右に向け、はの手の前の位置に置く



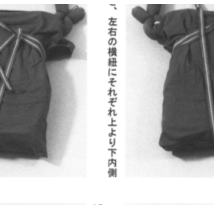
【お膳の整え方】
三方は、穴の開いていない方を器側に付け、右手は薬指、中指を穴の中に入れ、残りの三指を外に出し、左手はお膳の左を支える



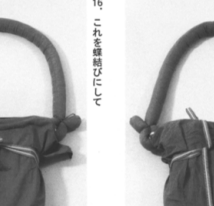
【お膳の持ち方】
三方は、穴の開いていない方を器側に付け、右手は薬指、中指を穴の中に入れ、残りの三指を外に出し、左手はお膳の左を支える



【お膳の持ち方】
三方は、穴の開いていない方を器側に付け、右手は薬指、中指を穴の中に入れ、残りの三指を外に出し、左手はお膳の左を支える



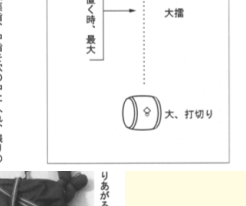
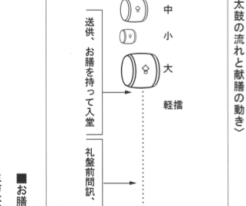
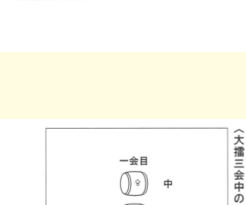
15. 紐の先端側を持ってきつく締め



16. これを締結して



15. 紐の先端側を持ってきつく締め



28. 問ひよにもさきより出し、口に入れる方を右に向け、はの手の前の位置に置く

【大座三会中の大鼓の流れと観舞の動き】

中座

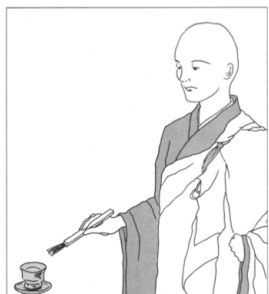
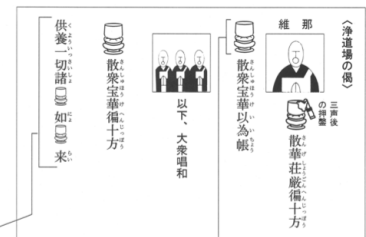
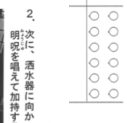
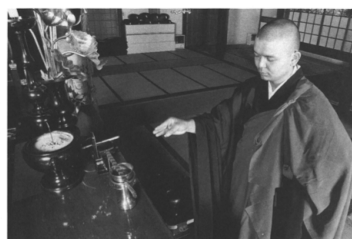
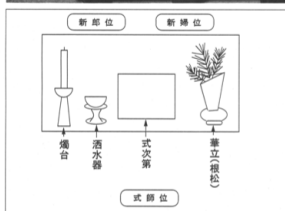
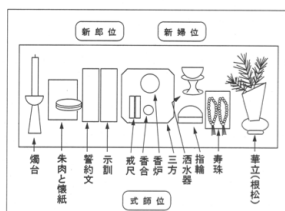
大座

大、打ち

図説 曹洞宗の法式 第五卷

第五卷 臨時法要篇

大般若会 / 読遺教経 / 結婚式 / 落慶式 / 地鎮式 / 上棟式 / 鐘供養 / 点眼・撥遣 / 歎仏会 / 拝具呈具 / 嗣法



■除垢明呪（三遍）

オン	キリ	キリ	バザラ	ウン	バッタ
唵	枳哩	枳哩	縛日羅	吽	泮吒

如来十号
 如来、应供、正徧知、
 明行足、善逝、世間解、
 无上士、調御丈夫、
 天人師、世尊

※如來十字母を唱えながら、筆で位牌（石塔）の文字を書きする法がある。まず、石塔に筆を持ち、左手を金剛拳にして、如來十字母を二回唱えていた間に、はじめに位牌の「佛」（石塔）の始點に力を入れて一点を打し、すべての文字を空々空々ぞり終わりて最終文字の終點に力を入れて一点を打す。次に、二回目の如來十字母で繰り返す。

三
界
唯
一
心
心
外
無
別
法
心
仏
及
衆
生
是
三
無
差
別

次に伊勢渚から（石垣の台地の南）を流す（または渚水枝）を渚水器に向け「オンザラ ウン バッタ」を三連鳴え、渚水枝（三連）（三連三左右転「オンバン」三連）の伊の三点を打ち、渚えろ。その後、渚央右の左に一回ずつ渚水する。続いて渚羊石の台座辺に向かつて右、左に一回ずつ。これで渚水が終了する。